

第一節 總則

第一百五十五條 差押、假差押及ヒ假處分ハ時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲ササルトキハ之ヲ其者ニ通知シタル後ニ非サレハ時効中斷ノ効力ヲ生セズ

第三節 消滅時効

第七十一條 辯護士ハ事件終了ノ時ヨリ公証人及ヒ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關シテ受取りタル書類ニ付キ其責ヲ免ル

第七十二條 辯護士、公証人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス但其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス

第二編 物權

(明治二十九年四月廿三日 法律第八十九號)

第一章 總則

第七十八條 動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ其動産ノ引渡アルニ非サレハ之ヲ以テ第三章ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二章 占有權

第八十條 占有權ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルニ因リテ之ヲ取得ス

第八十一條 占有權ハ代理人ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第八十二條 占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡ニ依リテ之ヲ爲ス

讓受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ所持スル場合ニ於テハ占有權ノ讓渡ハ當事者ノ意思表示ノミニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三節 共有

第二百五十九條 共有者ノ一人カ他ノ共有者ニ對シテ共有ニ關スル債權ヲ有スルトキハ分割ニ際シ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ以テ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

債權者ハ右ノ辨濟ヲ受クル爲メ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ賣却スル必要アルトキハ其賣却ヲ請求スルコトヲ得

第四章 地上權

第二百六十八條 設定行爲ヲ以テ地上權ノ存續期間ヲ定メサリシ場合ニ於テ別段ノ慣習ナキトキハ地上權者ハ何時ニテモ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得但地代ヲ拂フヘキトキハ一年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ期限ノ至ラサル一年分ノ地代ヲ拂フコトヲ要ス

●民法 地上權 留置權 先取特權 先取特權ノ種類 一般ノ先取特權 百七十八

地上權者カ前項ノ規定ニ依リテ其權利ヲ拋棄セサルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ二十年以上五十年以下ノ範圍内ニ於テ工作物又ハ竹木ノ種類及ヒ狀況其他地上權設定ノ當時ノ事情ヲ斟酌シテ其存續期間ヲ定ム
第二百六十九條 地上權者ハ其權利消滅ノ時土地ノ原狀ニ復シテ其工作物及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得但土地ノ所有者カ特價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知シタルハ地上權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
前項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第七章 留置權

第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第二百九十七條 留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ其債權ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得
前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第八章 先取特權

第二節 先取特權ノ種類

第三百六條 第一款 一般ノ先取特權
左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ總

財產ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 共益ノ費用
- 二 葬式ノ費用
- 三 雇人ノ給料
- 四 日用品ノ供給

第三百七條 共益費用ノ先取特權ハ各債權者ノ共同利益ノ爲メニ爲シタル債務者ノ財產ノ保存、清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在ス
前項ノ費用中總債權者ニ利益ナラザリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在ス

第三百八條 葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス
前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養ス可キ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付テモ亦存在ス

第三百九條 雇人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六個月間ノ給料ニ付キ存在ス但其餘額ハ五十圓ヲ限トス
第三百十條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六個月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

第二款 動産ノ先取特權

第三百一十一條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 不動産ノ賃貸借

二 旅店ノ宿泊

三 旅客又ハ荷物ノ運輸

四 公吏ノ職務上ノ過失

五 動産ノ保存

六 動産ノ賣買

七 種苗又ハ肥料ノ供給

八 農工業ノ勞役

第三百一十二條 不動産賃貸ノ先取特權ハ其不動産ノ借賃其他賃貸借關係ヨ

リ生シタル賃借人ノ債務ニ付キ賃借人ノ動産ノ上ニ存在ス

第三百一十三條 土地ノ賃借人ノ先取特權ハ賃借地又ハ其利用ノ爲メニスル

建物ニ備付ケタル動産、其土地ノ利用ニ供シタル動産及ヒ賃借人ノ占有

ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス

建物ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借人カ其建物ニ備付ケタル動産ノ上ニ存在

ス

第三百一十四條 賃借權ノ讓渡又ハ轉賃ノ場合ニ於テハ賃借人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ動産ニ及フ讓渡人又ハ轉賃人カ受クヘキ金額ニ付キ亦同シ

第三百一十五條 賃借人ノ財差ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ノ先取特權ハ

前期ノ當期及ヒ次期ノ借賃其他ノ債務及ヒ前期並ニ當期ニ於テ生シタル

損害ノ賠償ニ付テ、ミ存在ス

第三百一十六條 賃借人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟

ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス

第三百一十七條 旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客、其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料並ニ

飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在ス

第三百一十八條 運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ附隨ノ費用ニ

付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス

第三百一十九條 第九十二條乃至第九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權

ニ之ヲ準用ス

第三百二十條 公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ

過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在ス

第三百二十一條 動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付キ其動産ノ上ニ

存在ス

前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ亦存在ス

第三百二十二條 動産賣買ノ先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス

第三百二十三條 種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用キタル後一年內ニ之ヲ用キタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

第三百二十四條 農工業勞役ノ先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三個月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ存在ス

第三百二十九條 一般ノ先取特權ノ順位
第一節 先取特權ノ順位
一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フ
一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス

第三百三十條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ

第一 不動産賃貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權

第二 動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ

第三 動産賣買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權

第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シテ亦同シ
果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ賃貸人ニ屬ス

第四節 先取特權ノ效力

第三百三十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス
不動産ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的タラサルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス

一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス
前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第九章 質權

第一節 總則

第三百四十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十三條 質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス

第三百四十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二節 動産質

第三百五十四條 動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限リ鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス

第四節 權利質

第三百六十四條 指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルヲ得ス
前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セス

第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分ニ限リ之ヲ取立ツルコトヲ得

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス

債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ上ニ質權ヲ有ス

第三百六十八條 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方

法ニ依リテ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第十章 抵押權

第二節 抵押權ノ効力

第三百七十八條 抵押不動產ニ付キ所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵押權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵押權ヲ滌除スルコトヲ得

第三百八十一條 抵押權者カ其抵押權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第三百七十八條ニ掲ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十三條 第三取得者カ抵押權ヲ滌除セント欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

- 一 取得ノ原因、年月日、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、住所、抵押不動產ノ性質、所在、代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面
- 二 抵押不動產ニ關スル登記簿ノ謄本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル登記ハ之ヲ掲クルコトヲ要セス
- 三 債權者カ一个月内ニ次條ノ規定ニ從ヒ增價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ハ第一號ニ掲ケタル代價又ハ特ニ指定シタル金額ヲ債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

第三百八十五條 債權者カ增價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間内ニ債務者及抵押不動產ノ讓渡人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三編 債權

(明治二十九年四月廿三日 法律第八十九號)

第一章 總則

第一節 債權ノ目的

第四百四條 利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トス

第四百五條 利息カ一年以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ルルコトヲ得

第四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定マルヘキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百七條 前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行フ前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第四百八條 債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲ササルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス
第三者カ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬ス

第二節 債權ノ効力

第四百十二條 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス
債務ノ履行ニ付キ不確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタルコトヲ知リタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス
債務ノ履行ニ付キ期限ヲ定メザリシトキハ債務者ハ履行ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

第四百十三條 債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサルトキハ其債權者ハ履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス
第四百十四條 債務者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス
債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債務カ作爲ヲ目的トスルトキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判

所ニ請求スルコトヲ得但法律行爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得

不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百十五條 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百十九條 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコト

ヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス
賠償額ノ豫定ハ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨ケス
違約金ハ之ヲ賠償額ノ豫定ト推定ス

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示
ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義
務ヲ負フ

第二款 不可分債務

第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不
可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メ
ニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲ス
コトヲ得

第四百二十九條 不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除ア
リタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得
但其一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債務者ニ
償還スルコトヲ要ス
此他不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債

權者ニ對シテ其効力ヲ生セス

第四百三十條 數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ
連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規
定ハ此限ニ在ラス

第三款 連帶債務

第四百三十二條 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一
人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ
請求スルコトヲ得

第四百三十四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對
シテモ其効力ヲ生ス

第四百三十五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ
債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタ
ルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十三條 連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他
ノ債務者ニ通知セスシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ
得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有
セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得但相

殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ過失アル債務者ハ債權者ニ對シ相殺ニ因リテ消滅スハカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得
連帶債務者ノ一人カ辨濟其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコトヲ怠リタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニテ債權者ニ辨濟ヲ爲シ其他有償ニ免責ヲ得タルトキハ其債務者ハ自己ノ辨濟其他免責ノ行爲ヲ有効ナリシモノト看做スコトヲ得

第四款 保証債務

第四百五十二條 債權者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十三條 債權者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ債權者ハ先ツ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行ヲ爲スコトヲ要ス

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付キ求償權ヲ有ス

第四節 債權ノ讓渡

第四百六十七條 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務

者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五節 債權ノ消滅

第一款 辨濟

第四百七十四條 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十五條 辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有効ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十二條 辨濟ノ提供ハ其提供ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免レシム

第四百九十三條 辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ

以テ是ル

第四百九十四條 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

第四百九十五條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス

供託者ハ遲滞ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十六條 債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有効ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テハ供託ヲ爲ササリシモノト看做ス

前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百九十七條 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得

ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

申込者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ承諾ノ通知ハ延著セサリシモノト看做ス

第五百二十七條 申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ承諾者ハ遲滞ナク申込者ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ成立セサリシモノト看做ス

第三款 契約ノ解除

第五百四十條 契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當

民法 契約 總則 契約ノ成立 契約ノ解除

ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十二條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サスシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間内ニ解除ノ通知ヲ受ケサルトキハ解除權ハ消滅ス

第三節 賣買

第一款 總則

第五百五十六條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ効力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其効力ヲ失フ

失フ

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スルマテハ買主ハ其手附ヲ抛棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二款 賣買ノ効力

第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラサリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五節 消費貸借

第五百九十一條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得
借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

第七節 貸借

第三款 貸借ノ終了

●民法

賣買ノ効力

消費貸借

貸借

貸借ノ終了

第六百十七條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

- 一 土地ニ付テハ一年
- 二 建物ニ付テハ三個月
- 三 貸席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十一條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃貸借ニ期間ノ定アルトキト雖モ賃貸人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第八節 雇傭

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス
前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三個月前ニ其豫

告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
六個月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三個月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定メアルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害

ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十節 委任

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百四十四條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滯ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其収取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

委任カ受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス

受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一節 寄託

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滯ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第十二節 組合

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限り他ノ組合員ノ一
致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サ
レハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第三章 事務管理

第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知ス
ルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行為

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リ
テ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第四編 親族

(明治卅一年六月十五日)
法律 第九號

第二章 戸主及ヒ家族

第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス

戸主又ハ家族ノ執レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ戸主ノ財産ト推定ス
第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス
家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主
ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル

前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉
スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルトキハ戸主ハ
之ヲ離籍スルコトヲ得但家族カ未成年ナルトキハ此限ニ在ラス

第三節 戸主權ノ喪失

第七百六十一條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主權ノ喪失ハ前戸主又ハ家督
相續人ヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以
テ其債權者及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三章 婚姻

第三節 夫婦財產制

第二款 法定財產制

第八百七條 妻又ハ入夫婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於
テ得タル財産ハ其特有財産トス
夫婦ノ執レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス

第七章 親族會

第九百四十八條 本人、戸主、家ニ在ル父母、配偶者、本家並ニ分家ノ戸主、
後見人、後見監人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得
親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第五編 相續

(明治三十一年六月十五日)
法律 第九號

第一章 家督相續

第三節 家督相續ノ効力

第九百八十六條 家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戸主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前戸主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

第九百八十七條 系譜、祭具及ヒ墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十八條 隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戸主ハ確定日附アル證書ニ依リテ其財産ヲ留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第九百八十九條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戸主タリシ間ニ負擔シタル債務ノ辨濟ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄

第二節 承認

第一款 單純承認

第一千二十三條 相續人カ單純承認ヲ爲シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二款 限定承認

第一千二十五條 相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキコトヲ留保シテ承認ヲ爲スコトヲ得

第一千二十九條 限定承認者ハ限定承認ヲ爲シタル後五日內ニ一切ノ相續債權ハ以ヒムルニ對シテ限定承認ヲ爲シタルコト及ヒ一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千三十條 限定承認者ハ前條第一項ノ期間滿了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第一千三十四條 前三條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スニ付キ相續財産ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相續財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得

第四章 財産ノ分離

第一千四十一條 相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノ時ヨリ三個月內ニ相續人ノ財産中ヨリ相續財産ヲ分離シテ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間滿了ノ後ト雖モ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間亦同シ

裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財産ノ分離ヲ命シタルトキハ其請求ヲ爲シタル者ハ五日内ニ他ノ相續債權者及受遺者ニ對シテ財産分離ノ命令アリタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ配當加入ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第千四十二條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ニ付キ相續人ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受シ

第千四十七條 相續人ハ第千四十一條第一項及ヒ第二項ノ期間満了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財産分離ノ請求アリタルトキハ相續人ハ第千四十一條第二項ノ期間満了ノ後相續財産ヲ以テ財産分離ノ請求又ハ配當加入ノ申出ヲ爲シタル債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千三十二條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十八條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受タルコト能ハザリシ場合ニ限り相續人ノ固有財産ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得
此場合ニ於テハ相續人ノ債權者ハ其者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第六章 遺言

第三節 遺言ノ効力

第千八十九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セザルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス

第四節 遺言ノ執行

第千百八條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントキハ遲滯ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第千百十條 相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲サザルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

第五節 遺言ノ取消

第一千二十八條 遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一千二十九條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七章 遺留分

第一千三十條 法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ彼相續人ノ財產ノ半額ヲ受ク

此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ彼相續人ノ財產ノ三分ノ一ヲ受ク

◎民法施行法

(明治三十一年六月 法律第十一號)

第一章 通則

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

第二條 民法ニ於テ破産ト稱スルハ民事ニ付テハ家資分散ヲ謂フ

第三條 身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其債務ヲ完済スルマテハ之ヲ破産者ト看做ス

第四條 證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條

證書ハ左ノ場合ニ限り確定日附アルモノトス

一 公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス

二 登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス

三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス

四 確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス

五 官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

第九條

左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

- 一 明治五年第二百九十五號布告
- 二 明治六年第二十一號布告
- 三 同年第二十八號布告
- 四 同年第四十號布告
- 五 同年第六十二號布告
- 六 同年第七十七號布告
- 七 同年第二百十五號布告代人規則

●民法施行法 總則編ニ關スル規定 通則

- 八 同年第二百五十二號布告
 - 九 同年第三百六號布告動產不動產書入金穀貸借規則
 - 十 同年第三百六十二號布告出訴期限規則
 - 十一 明治七年第二十七號布告
 - 十二 明治八年第六號布告
 - 十三 同年第六十三號布告
 - 十四 同年第一百二號布告金穀貸借請人証人辨償規則
 - 十五 同年第四百四十八號布告建物書入質規則及ヒ建物賣買讓渡規則
 - 十六 明治九年第七十五號布告
 - 十七 同年第九十九號布告
 - 十八 明治十年第五十號布告
 - 十九 明治十四年第七十三號布告
 - 二十 明治十七年第二十號布告
 - 二十一 明治二十三年法律第九十四號財產委棄法
 - 二十二 同年勅令第二百十七號辨濟提供規則
- 明治六年第十八號布告地所質入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第二章 總則編ニ關スル規定

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

第三十條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時効ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一條 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條 前三條ノ場合ニ於テ民法中時効ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三章 物權編ニ關スル規定

第五十一條 民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス

不動產ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保

スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第四章 債權編ニ關スル規定

第五十二條 明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ削除ス

第五十三條 民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

『參照』

明治五年二月第二百九十五號布告ハ人身賣買ヲ禁シ諸奉公人年限ヲ定メ藝娼妓ヲ解放シ之ニ附キテノ貸借訴訟ハ取上ケサル件、同六年八月第二十一號布告ハ妻ニアラサル婦女分娩ノ兒子ハ私生ト爲シ其婦女ノ引受タラシムル件、同年七月第二十八號布告ハ華土族家督相續ノ件、同年

七月第四十號布告ハ貸金銀利息ノ制ヲ改メ雙方示談ノ上證文ニ記載セシムル件、同年五月第六百六十二號布告ハ夫婦ノ際已ムヲ得サル事故アリテ其離縁ヲ請フモ夫之ヲ肯セサルハ出訴スルヲ許ス件、同年五月第六百七十七號布告ハ脫籍並ニ行衛知レサル者八十歳ヲ過クレハ除籍スルノ件、同年七月第二百五十二號布告ハ負債ニテ身代限ノ者ハ貸金穀其他義務ヲ得ヘキ者定約期限未滿内ノ分處置振ノ件、同七年三月第二十七號布告ハ預金穀証書中封印ノ儘預リ或ハ使用セサルノ明文ナキモノハ出訴ノ預貸金同様裁判セシムル件、同八年十一月第六號布告ハ民法裁判上負債者失踪後ノ訴訟成例改正ノ件、同年十月第六十三號布告ハ金銀其他借用証書ニ數名連印中失踪又ハ死亡シ相續人ナキトキ償却方ノ件、同九年五月第七十五號布告ハ合家ヲ禁止シ從前合家セシ分取扱方ノ件、同年五月第九十九號布告ハ金穀等借用証書讓渡ノ節書換ヘシムル件、同十年七月第五十號布告ハ諸証書ノ姓名ハ自書シ實印ヲ押サシムル等ノ件、同十四年十二月第七十三號布告ハ無能力者、法律ニ定メタル代人及民事擔當人ノ件、同十七年七月第二十號布告ハ單身戶主死亡又ハ除籍者絶家期限ノ件、同六年七月第十八號布告地所賣入書入規則第十一條ハ「地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人ハ賣買質入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事」同十年一月第六十六號布告利息制限法第三條

ハ「法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサルトキ
裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六トス」
トノ件ナリ

本法第十四條ニ掲クル明治十二年^{七月十}第三十六號布告刑法第十條第三
號、第二十五條、第三十六條、第五十五條中、同十四年^{十二月}第六十七號布
告刑法附則第四十一條、同年^{八月三}第六十九號布告陸軍刑法第十八條第
四號、第三十二條中及第七十號布告海軍刑法第九條第四號、第二十二條
ノ削除ハ禁治産ニ關スル件ナリ

刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ賠償處分ニ關スル件ナリ

◎競賣法

(明治三十一年六月十五日
法律 第十 五 號)

第一章 通則

第一條 競買ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サス
シテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其効力ヲ失フ

第二條 競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス

競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス
競買人ハ留置權者、競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其質權者
ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受

受ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣

第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規
定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區
裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

第四條 競賣ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
債權者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價
ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ所在地ニ於テ之ヲ爲ス但其地ニ於テ相
當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競賣ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコ
トヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラズ

第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方
法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣委任者ノ氏名、住所

●競賣法 動産競賣

- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
 - 三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件
 - 四 競賣ノ場所及ヒ年月日時
 - 五 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所
- 委任者カ競賣ノ條件ヲ定メサリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第十條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル競

買ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス

競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

- 第十四條 執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印スヘシ
- 一 競賣委任者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
- 三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額
- 四 競賣ノ場所及ヒ日時
- 五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由
- 六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セザリシトキハ其事由
- 七 告知シタル競賣ノ條件
- 八 各競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額
- 九 競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由

十 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時

十一 競賣調書ヲ作リタル場所及ヒ年月日

競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名、捺印セシメ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ証スル書面及ヒ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第十五條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セサリシ物ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第十六條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣調書ニ添附スヘシ

第十七條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス

第十九條 第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコトヲ要ス

物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ遲滞ノ爲メ著シク物ノ價ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競賣ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス此場合ニ於ケル競賣手續及ヒ保管ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第二十一條 競賣ノ委任ハ競落ノ告知アルマテ之ヲ取消スコトヲ得
前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第三章 不動産ノ競賣

第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス

民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄

ニ之ヲ準用ス

第二十三條 申立人ハ競落期日マテハ最高價競買申込人ノ同意アル場合ニ限リ其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示
- 三 競賣ノ原因タル事由
- 四 年月日
- 五 裁判所

申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依

リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第二十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ

民事訴訟法第二百二十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用ス

第二十六條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ

民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

- 一 申立人
- 二 債務者及ヒ所有者
- 三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者
- 四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ

第二十九條 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三十條 競賣期日、其開始、競賣調書及ヒ競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十一條 競賣期日ニ相當ノ競買申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十二條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添へ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ
裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

第三十四條 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ルル外本章ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

第四章 船舶ノ競賣

第三十六條 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス

第三十七條 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第五章 増價競賣

第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ増價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵

當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス

第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者ノ氏名、住所
- 二 抵當不動産ノ表示
- 三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
- 四 擔保ノ表示
- 五 第三取得者カ提供シタル金額
- 六 請求者カ定メタル増價金額
- 七 年月日
- 八 裁判所

申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス

第四十二條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲ス

スヘシ

期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出タスヘシ

擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其効力ヲ失フ

民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ

決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第二號乃至第三號、

第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第二十五條第二項、第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ

之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ増價競賣ニ之ヲ準用ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 競賣請求者

二 債務者

三 第三取得者及ヒ讓渡人

四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ証明シタル者

第四十六條 競賣ノ公告ニハ增價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル增價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス
第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタル增價金額ニ達スル競買ノ申込ナキトキハ請求債權者ヲ以テ競落人トス
民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス
第四十八條 增價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ因リテ其ノ効力ヲ失フ
第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲ス

ヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

附則

第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 明治二十三年法律第九十二號增價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(參考) 動産競賣公告 (競賣法第七條)

左記ノ物品ハ住所氏名ノ委任ニヨリ何年何月何日午(前)(後)何時何所ニ於テ競賣法ニ從ヒ競賣ニ付ス (但シ賣却條件何々)

何年何月何日 住所 何區裁判所執達吏 氏名 印

競賣品

一何々 (種類、品質、數量)

有体動産競賣調書 (競賣法第十四條)

住所族稱職業

委任者 氏名

右氏名ノ委任ニヨリ何年何月何日何所ニ於テ競賣法ニ從ヒ別紙目錄記載ノ物品ヲ競賣ニ付スル爲メ臨場競買人ニ左ノ條件ヲ告知シタリ

第六章 商業使用人

第三十條 支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得
支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七章 代理商

第三十七條 代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク本人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
第三十九條 物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ其數量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ有ス
第四十條 當事者カ契約ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
當事者契約ノ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第二編 會社

第一章 總則

第四十二條 本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立

シタル社團ヲ謂フ
第四十四條 會社ハ之ヲ法人トス
會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノトス

第二章 合名會社

第四節 社員ノ退社

第六十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メサリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス
會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第七十條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限り他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

- 一 社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ
- 二 社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 三 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當タリ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

●商法 合名會社 社員ノ退社

四 社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干與シタルトキ

五 其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ
第五節 解散

第七十八條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス
會社ハ前項ノ期間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第四章 株式會社

第三十條 株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第二節 株式

第五十二條 株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

第五十三條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲サルトキハ其權利ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ヲ爲サルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス此場合ニ於テ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セサルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得
前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第五百五十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其

通知ヲ發スルコトヲ要ス
前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第三編 商行為

第一章 總則

第二百七十條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其効力ヲ失フ
民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百七十六條 商行為ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百七十九條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行

ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス
第二百八十三條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限り債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 賣買
第二百八十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第二百八十八條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ檢査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得
賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十九條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其他物ニ付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四章 匿名組合

第三百一一條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス組合ノ存續期間ヲ定メタルト否ト問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五章 仲立營業

第三百八條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作リ署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス
當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス

第八章 運送營業

第一節 物品運送

前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セス又ハ之ニ署名セサルトキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十六條 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス運送人ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十七條 第二百八十六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合

ニ之ヲ準用ス

第三百四十八條 運送人ノ責任ハ荷受人留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取リ且運送賃其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタル片ハ此限ニ在ラス前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二章 旅客運送

第三百五十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送賃ヲ請求セサルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス

第九章 寄託

第二節 倉庫營業

第三百六十八條 質入証券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス
第三百六十九條 質入証券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百七十三條 質入証券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサル場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第十章 保險

第一節 損害保險

第四百十二條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ滯滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四編 手形

第一章 總則

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形、約束手形及小切手ヲ謂フ
第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス
利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公証人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ

問合ヲ爲スモ營業所ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絕証書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條 引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕証書作成ノ日ヨリ六個月裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形

第四百五十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ其爲替手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地ヲ以テ其支拂地トス

第三節 引受

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得
所持人カ拒絕証書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絕証書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕証書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス
所持人カ拒絕証書ヲ作ラシメサリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕証書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條 支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ

於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス
前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘ
キ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ
爲シタルコトヲ証明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四節 擔保ノ請求

第四百七十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其
前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得
支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及
ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ
引受拒絕證書ヲ作ラシメ且擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滯ナク
擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百七十六條 裏書人カ其後者ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其前者
ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滯ナク
擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十條 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供
セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ
作ラシメ且遲滯ナク豫備支拂人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ
所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ
第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第六節 償還ノ請求

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其
前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂ヲ求ム
ル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ滿期
日又ハ其後二日內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメント欲ス
ル者ニ對シ拒絕證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲サザリシトキハ其前者ニ對スル手形上
ノ權利ヲ失フ

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ
其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ自己カ通
知ヲ受ケタル日ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキ

ト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百九十一條 支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲サリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ
第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得
一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利息
二 拒絶證書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絶證書ヲ作ラシタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス
豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絶證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百四條 所持人ハ引受拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス
參加引受人ハ遲滯ナク前項ノ拒絶證書ヲ被參加人ニ送付スルコトヲ要ス

第二款 參加支拂

第五百八條 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ滿期日又ハ其後二日內ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

●商法 參加 參加引受 參加支拂

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス
所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第九節 拒絕證書

第五百十四條 拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公証人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公証人又ハ執達吏之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 爲替手形、其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項
- 二 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號
- 三 拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セザリシコト又ハ拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシ理由
- 四 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 五 拒絕者ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シタルコト
- 六 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト

七 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

第五百十六條 數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲナスヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第五百十七條 公証人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルトキハ其帳簿ニ其證書ノ全文ヲ記載スルコトヲ要ス

拒絕證書カ滅失シタルキハ利害關係人ハ其謄本ノ交付ヲ請求スルヲ得此謄本ハ原本ト同一ノ効力ヲ有ス

第三章 約束手形

第五百二十六條 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十七條 一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百二十八條 所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セサリシトキ

ハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶証書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四章 小切手

第五百三十三條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ一週内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百三十四條 小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ前條第一項ニ定メタル期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル

(参照) 支拂拒絶證書

(商法第五百十五條)

何縣何市何郡何町村何番地

被拒絶者

何

何縣何市何郡何町村何番地

拒絶者

何

約束手形

一金何圓也

右金額何年何月何日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ無相違支拂可申候也

何年何月何日

何 某 殿

何縣何市何郡何町村何番地

何 某

印

表面ノ金額何某殿又ハ同人指圖人へ御支拂可被成候也

何年何月何日

補箋 本手形呈示相受候也

何縣何市何郡何町村何番地

何 某

印

何縣何市何郡何町村何番地

何年何月何日

右手形所持人何某ハ滿期日即チ何年何月何日支拂ノ場所何某本店ニ至リ何某ニ出會ノ上手形ヲ呈示シ手形額面何圓ノ支拂ヲ要求シタル處支拂資金無之趣キヲ以テ支拂ヲ拒絶シタルニ付拒絶證書作成相成度旨本職役場ニ出頭

シ請求ヲナセリ

依テ本職ハ(手形所持人何某ト共ニ)手形振出人營業所何縣何市郡何町村番地ニ出張シ振出人ニ面會ノ上手形所持人陳述ノ旨ヲ更ニ本職ヨリ告知シ該手形ヲ呈示シ支拂フ可キ旨ヲ催告セタルニ支拂ヒテ爲シ難キ旨ヲ陳述セリ振出人ハ此手形ノ支拂ヲ拒絕シタルモノト認メ此ノ證書ヲ作り被拒絕者ノ爲メ此權利ヲ保持スル者也

何區裁判所

執達吏

何

某

印

何年何月何日

第五編 海商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者

第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス
第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對

シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二章 船員

第一節 船長

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滯ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

第五百九十四條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ

●商法 船員 船長 運送 物品運送

運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞
ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ
通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタ
ルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ
得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セ
ス

第五百九十五條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ
確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ
直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期
間内ニ限り備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ
於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滞ナ
ク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリ
タル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ
船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス
箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指
圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供
託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スル
コトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ
拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞
ナク備船者又ハ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受ク
ル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上
ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ
第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百二十六條 二人以上ノ船荷証券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル
トキハ船長ハ遲滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ
其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第六百二十四條ノ規定ニ依リテ運送品
ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於

テ其殘部ニ付キ亦同シ

第五章 保險

第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約竝ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受ケルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

◎舊商法 (明治二十三年四月法律第三十二號)

第三編 破産

第一章 破産宣告

第九百七十八條 商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス (三十二年法律第四十九號ヲ以テ全條改正) 裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲナスコトヲ得

第二章 破産ノ効力

第九百八十五條 破産宣告ニ依リ破産者ハ破産手續ノ繼續中自己ノ財産ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失フ

破産宣告ノ日ヨリ以後ハ破産者ノ爲シタル支拂其他總テノ權利行爲及ヒ破産者ニ爲シタル支拂ハ當然無効トス

破産者ノ動産、不動産ニ關スル訴及ヒ執行ハ特リ管財人ヨリ又ハ管財人ニ對シテ之ヲ起シ又ハ繼續スルコトヲ得

第九百八十六條 破産者ノ營業ノ用ニ供スル動産ニ對シテ不動産貸賃ノ爲メニスル強制執行ハ三十日間之ヲ猶豫ス但賃貸人カ其賃貸物ヲ取戻ス權利ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

第九百八十七條 各箇債權者ハ優先權ノ存スルニ非サレハ破産處分中破産者ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第九百八十八條 辨濟期限ノ未タ至ラサル破産者ノ債務ハ破産宣告ニ依リ

テ辨濟財限ニ至リタルモノトス

爲替手形ノ引受人又ハ引受ナキ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ振出人
カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其償還義務ニ付テモ前項ノ規定ヲ適用ス

第九百八十九條

財團ニ對シテハ破産宣告ノ日ヨリ利息ヲ生スルコトヲ止
ム但抵當權、質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル債權ハ其擔保物ノ

賣拂代金ニ滿ツルマテヲ限トシテ利息ヲ生スルコトヲ得

第三章 別除權

第九百九十七條

債務者ノ動産又ハ不動産ニ對シテ抵當權、質權其他ノ優
先權ヲ有スル債權者ハ財團ヨリ先ツ辨償ヲ受クルニ非サレハ其擔保物ノ

賣拂代金ヨリ費用、利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受クル爲メ別除ノ辨償ヲ請求
スルコトヲ得若シ其賣拂代金ノ剩餘アルトキハ買主之ヲ財團ニ拂込ム可
シ

第一千一條

破産者ノ財産ニシテ民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ爲メ差押フル
コトヲ得サルモノハ之ヲ財團ニ加フルコトヲ得ス但債權者ニ優先權ノ屬
スルモノニ付テハ第九百九十七條ノ規定ニ從フ

第四章 保全處分

第一千二條

裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ノ封印ヲ命ス
會社ニ在テハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ財産ニ對シテ右ノ處分ヲ

行フ

第一千三條

破産者カ逃走シ若クハ其財産ヲ隱匿スルノ虞アリト認ムルトキ
ハ裁判所ハ其監守ヲ命スルコトヲ得(二十六年法律第九號ヲ以テ本項ヲ加フ)

會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ對シテ右ノ處分ヲ行フ
破産者ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其住地ヲ離ルルコトヲ得ス又
裁判所ハ何時ニテモ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得

第一千五條

管財人カ債務者ノ財産ヲ財産目録ニ載セ且之ヲ占有シタルトキ
ハ直チニ其封印ヲ解ク可シ

第一千一條ニ依リ財團ニ加フルコトヲ得サル物及ヒ財團ノ爲メニスル即時
ノ換價又ハ繼續利用ヲ封印ノ爲メ妨ケタル物ニハ封印ヲ爲ササルコト
ヲ得此等ノ物ハ直チニ財産目録ニ載セ管財人之ヲ占有スルコトヲ要ス

債務者ノ商業帳簿ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ且其帳簿ノ現狀ハ破産主任
官之ヲ認證ス
特ニ高價ナル物ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ又ハ一時之ヲ裁判所ニ引取ル
コトヲ得

第五章 財團ノ管理及ヒ換價

第一千九條

管財人ノ勤勞ニ對スル報酬ハ財團ヨリ第一ニ之ヲ支拂ヒ其額ハ
破産裁判所之ヲ定ム

第一千十四條 財産目録ハ裁判所職員又ハ其地警察官吏ノ立會ヲ以テ管財人
 之ヲ作リ若シ必要アルトキハ破産者ヲモ立會ハシム
 破産者ニ屬スル總テノ財産ハ財團ニ組入ル可カラサルモノト雖モ其價額
 ヲ明示シテ之ヲ財産目録ニ記入スルコトヲ要ス必要ナル場合ニ在テハ其
 價額ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム
 財産目録及ヒ之ニ關スル調書ノ認証アル膳本ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ
 裁判所ニ之ヲ備フ

檢事ハ其見込ニ因リ職權ヲ以テ財産目録ノ作成ニ立會フコトヲ得

第一千十八條 不動産ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ競賣スルコトヲ要ス
 動産ハ競賣スルヲ通例トスト雖モ破産主任官ノ認可ヲ受クルトキハ相對
 ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得
 競賣ノ手續ハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ依ル

第八章 配當

第一千四十九條 破産手續終結ノ後ハ辨償ヲ受ケサル債權者ハ破産手續ニ於
 テ確定シタルニ因リテ得タル權利名義ニ基キ其債權ヲ債務者ニ對シテ無
 限ニ行フコトヲ得

第十一章 支拂猶豫

第一千六十三條 債務者有効ナル支拂猶豫ヲ得タルトキハ猶豫期間中其以前

ニ取結ヒタル商取引ヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受
 クルコト無シ但猶豫契約ノ履行及ヒ業務ノ施行ニ關シテハ主任判事ノ監
 督ヲ受ク

債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ右猶豫ノ爲メニ變更スルコト無シ

◎商法施行法

(明治二十二年三月
法律第四十九號)

第十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ
 之ヲ適用セス

第十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示
 アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但シ取引所ノ相場アル有價
 證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、第
 二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至
 第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十
 三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ
 其効力ヲ存ス

◎商法施行條例

(明治二十二年八月七日
法律第五十九號)

第二十條 商法及本條例ニ依リ發スル命令書ヲ送達スル場合ニ於テハ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ

◎供託法

(明治三十二年二月七日
法律第十五號)

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス

第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得
倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ還付ス
供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

●供託法 附則

第十三條 第四條、第八條及第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎供託物取扱規程

(明治三十二年三月十六日 大藏省令第六號)

第一條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス

第二條 此ノ規程ニ於テ供託ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合ニ於テ保管スヘキ金錢有價證券ヲ謂フ

第三條 供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ作リ之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ニ提出スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名

第二 供託セントスル金額 有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ金額拂込未済ノモノハ券面額ノ左側ニ其ノ拂込濟額ヲ記入スルコトヲ要ス

第三 供託ノ原因 (事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名)

第四 供託スヘキ法令ノ條項

第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置 (實權者抵當權者等特ニ其ノ名稱ヲ記スルコトヲ要ス) 及氏名住所官廳ナレハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名

第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其反對給付ノ目的物

第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作り第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫へ提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲シタル金銭證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書ヲ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作りタル供託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事ヲ表示シタル債權者ノ書面

第二 供託ヲ有効ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決書ノ正本

第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ証明スルニ足ルヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シタル書面

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルトキハ其ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保証人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十五條 供託法第三條ニ規定スル供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

第十六條 供託法第三條ニ依リ利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ第八號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ提出スヘシ

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行へ本支金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店、代理店へ之ヲ回付スヘシ

日本銀行又ハ其支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ証セシメ其現金ヲ交付スヘシ

第一號書式(用紙美濃判)二枚以上ニ及フトキハ契印スヘシ以下之ニ同シ

供託證

(金錢ト有價証券トハ各別ニ作成スルヲ要ス)

府縣郡市町村番地

供託者

何

某

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

(全額拂込未済ノモノハ其ノ拂込額ヲ左側ニ記入スルコトヲ要ス以下之ニ同シ)

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

供託ノ原因

同記號番號枚數記載方前ニ同シ

前ニ同シ

供託スヘキ法令ノ條項

供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定

反對給付ノ目的物

官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名

右供託ス

年月日

右

何金庫宛

何

某

印

(受領書式)

第何號

右受領ス

年月日

何金庫

何

某

印

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領収候也

府縣郡市町村番地

年月日

受取人

何

某

印

第四號書式

供託物拂渡請求書

(供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

●供託書式

二百六十八

一金何圓也

(幾分ノトキハ請求額ノ上部ニ何年何月何日第何號供託受領證ノ内ト肩書スヘシ)

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記號番號枚數記載方
前ニ同シ

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

前書ノ金額(又ハ有價証券)供託者ノ指定ニ依リ又ハ何年法律勅令何省令第何號ニ依リ若クハ裁判ニ依リ(供託者ニ於テ取戻ヲナサントスル場合ハ何々ノ事由ニ依リ云々ト記載スル)拂渡相受度別紙證明書並ニ供託受領証相添請求候也

年月日

府縣郡市町村番地

受取人(又ハ供託者) 何 某印

何金庫宛

第五號書式

領收証書

(供託受領證一葉毎ニ領收證書ヲ作成スルコトヲ要ス)

何年何月何日第何號供託受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記號番號枚數記載方
前ニ同シ

又ハ

一何々

同 前ニ同シ

前書ノ金額(又ハ有價証券)正ニ領收候也

年月日

府縣郡市町村番地

受取人 何 某 印

何金庫宛

第八號書式

利息請求書

何年何月何日第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利息仕拂相成度請求候也

年月日

府縣郡市町村番地
受取人 何

某 印

何金庫宛

●供託書式

二百六十九

(利息記入式)

一金何圓也

何年何月ヨリ
何年何月マテ

利息額

右ノ通ニ候也

年月日

何金庫印

(現金領收ノ式)

前書之金額正ニ領收候也

年月日

受取人

何某印

日本銀行本支店宛
又ハ其代理店宛

◎家資分散法

(明治二十三年八月二十日
法律第六十九號)

第一條

民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辯済スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スコシ

右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セシテ之ヲ爲スコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ

參照(商法)

第一千五百五條

復權ヲ得ルニハ協諾契約ノ調ヒタルト否トヲ問ハス破産者カ元債、利息及ヒ費用ノ全額ヲ債權者總員ニ辨償シタルコト又所在ノ知レサル爲メ未タ辨償ヲ受ケサル債權者ニ全額ヲ辨償スル準備及ヒ資力アルコトヲ證明スコシ

復權ノ申立ニハ債權者ノ受取證其他必要ナル證據物ヲ添フ可シ

(二十二法律第四十九號ヲ以テ第二項ヲ刪除)

第一千五百六條

復權ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ異議アル者ヲシテ二个月ノ期間ニ異議ヲ起サシメンカ爲メ裁判所ノ揭示場ト取引所トニ其旨ヲ揭示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ檢事ニ通知スコシ

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復權ノ申立ヲ許可スルト否トヲ決定ス

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得確定シタル決定ハ之ヲ公告ス

◎家資分散法 參照 商法

●民事訴訟費用法

二百七十二

棄却セラレタル申立ハ一个年ノ滿了前ニハ再ヒ之ヲ爲スコトヲ得ス
第一千五百七十七條 復権ハ債務者ノ死亡後ト雖モ之ヲ許ス

第一千五百八十八條 復権ハ詐欺破産ノ爲ニ判決ヲ受ケタル破産者又ハ重罪、
輕罪ノ爲メニ剝奪公權若クハ停止公權ヲ受ケテ其時間中ニ在ル破産者
ニハ之ヲ許サス

過怠破産ノ場合ニ在テハ復権ハ刑ノ滿期ト爲リ又ハ恩赦ヲ得タル後ニ
非サレハ之ヲ許サス

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者
ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル
者ニ對シ効力ヲ有ス

◎民事訴訟費用法

(明治二十三年八月
法律第六十四號)

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ
算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五
厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判
所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五拾錢トス但半枚ニ滿タサ
ルモノモ亦同シ

第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第七百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタル
トキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

參照(民訴)
第二百二十七條 裁判所ハ相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ缺ケタル原告若クハ被
告又ハ訴訟代理人若クハ輔佐人ニ其後ノ演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護
士ヲシテ演述セシム可キコトヲ命ス可シ

裁判所ハ裁判所ニ於テ辯論ヲ業トスル訴訟代理人若クハ輔佐人ヲ退斥セ
シムルコトヲ得此場合ニ於テハ新期日ヲ定メ且退斥ノ決定ヲ原告若クハ
被告ニ送達ス可シ

本條ノ規定ニ從ヒ爲シタル命ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

辯護士ニハ本條ノ規定ヲ適用セズ

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場
合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

●民事訴訟費用法

二百七十三

●民事訴訟費用法

二百七十四

第十條 證人ノ日常ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日常ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得(三十三年一月法律第三號ヲ以テ改正)

第十二條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金二十五錢トシ証人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日五十錢トス

第十三條 當事者、證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十四條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ滞在費ハ証人ニ準ス

第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

◎民事訴訟用印紙法 (明治廿三年八月 法律第六十五號)

注意 (三十一年勅令第四百十號ヲ以テ訴訟用印紙ヲ貼用スヘキ場合ニハ收入印紙ヲ貼用スヘキモノト定ム)

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十錢

同 十圓マテ 三十錢

同 二十圓マテ 六十錢

同 五十圓マテ 一圓五十錢

同 七十五圓マテ 二圓二十錢

同 百圓マテ 三圓

同 二百五十圓マテ 六圓五十錢

同 五百圓マテ 十圓

同 七百五十圓マテ 十三圓

●民事訴訟用印紙法

二百七十五

同 千圓マテ

十五圓

同 二千五百圓マテ

二十圓

同 五千圓マテ

二十五圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ
參照(民訴)

第三條 訴訟物ノ價額ハ起訴ノ日時ニ於ケル價額ニ依リ之ヲ算定ス

果實、損害賠償及ヒ訴訟費用ハ法律上相牽連スル主タル請求ニ附帶シ

一ノ訴ヲ以テ請求スルトキハ之ヲ算入セス

第四條 一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ストキハ前條第二項ニ掲クルモノ
ヲ除ク外其額ヲ合算ス

本訴ト反訴トノ訴訟物ノ價額ハ之ヲ合算セス

第五條 訴訟物ノ價額ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

第一 債權ノ擔保又ハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權カ訴訟物ナルトキ
ハ其債權ノ額ニ依ル但物權ノ目的物ノ價額寡キトキハ其額ニ依ル

第二 地役カ訴訟物ナルトキハ要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ價額ニ依
ル但地役ノ爲メ承役地ノ價額ノ減シタル額カ要役地ノ地役ニ依リ得

ル所ノ價額ヨリ多キトキハ其減額ニ依ル

第三 賃貸借又ハ永貸借ノ契約ノ有無又ハ其時間カ訴訟物ナルトキハ
爭アル時期ニ當ル借賃ノ額ニ依ル但一个年借賃ノ二十倍ノ額カ右ノ
額ヨリ寡キトキハ其二十倍ノ額ニ依ル

第四 定時ノ供給又ハ收益ニ付テノ權利カ訴訟物ナルトキハ一个年收
入ノ二十倍ノ額ニ依ル但收入權ノ期限定マリタルモノニ付テハ其將
來ノ收入ノ總額カ二十倍ノ額ヨリ寡キトキハ其額ニ依ル

第六條 訴訟物ノ價額ハ必要ナル場合ニ於テハ第三條乃至第五條ノ規定
ニ從ヒ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ハ申立ニ因リ證據調ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ檢證若クハ鑑定ヲ命
スルコトヲ得

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做
シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併
合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴訟ニ印紙
ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ
加貼スヘシ

●民事訴訟用印紙法

二百七十七

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 証據調ノ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アラントヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其
一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第
三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ
規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

參照(民訴)

第三百八十一條

訴ヲ起サントスル者ハ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示
シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出ス可キコトヲ申立
ツルコトヲ得其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
當事者雙方出頭シ和解ノ調ヒタルトキハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム
可シ
和解ノ調ハサルトキハ當事者雙方ノ申立ニ因リ其訴訟ニ付キ直チニ辯

論ヲ爲ス此場合ニ於ケル訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス
第三百九十條 適當ナル時間ニ異議ヲ申立テタル場合ニ於テハ請求ニ付
キ起ス可キ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其訴ハ支拂命令ノ送達
ト同時ニ區裁判所ニ之ヲ起シタルモノト看做ス其口頭辯論ノ期日ハ第
三百七十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當
ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當
ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼
用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼
用セサル民事訴訟ノ書類ハ其効ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用
スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有効ナラシム
ルヲ得

參照(民訴)

第九十七條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ爲ニ左ノ効
力ヲ生ス

第一 裁判費用(國庫ノ立替金ヲ包含ス)ヲ濟清スルコトノ假免除
 第二 訴訟費用ノ保證ヲ立ツルコトノ免除
 第三 送達及ヒ執行行為ヲ爲サシムルタメ一時無報酬ニテ執達吏ノ附
 添ヲ求ムル權利
 受訴裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル原告若ク
 ハ被告ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一時無報酬ニテ辯護士ノ附添ヲ命
 スルコトヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於
 テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以
 下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買収シタル者ハ
 十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱
 發ノ例ヲ用中ス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

刑 法

(明治十三年七月)
 (第三十六號布告改定)
 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命
 令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四
 年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

第三百四十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條
 ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第三百四十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱
 シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金
 ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者
 亦同シ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第三百七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封
 印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第三百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜

●刑法 信用ヲ害スル罪 官ノ文書ヲ偽造スル罪 財産ニ關スル罪 二百八十二

罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債証書地券其他官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ無記名ノ公債証書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第三編

第二章 財産ニ對スル罪

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

●公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件 (明治廿三年十月八日) (法律 第百號)

刑法中官廳、官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印、文書及免狀、鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ適用ス

◎刑法附則 (明治十四年十二月十九日) (布告 第六十七號)

第一章 主刑執行

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル証人醫師鑑定人、通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日常旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 證人ノ日常ハ出頭一度ニ付キ金貳拾錢乃至金五拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日常ヲ給與セス(二十八年法律第三號ヲ以テ改正)

第四十九條乙 醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日常ハ出頭一度ニ付キ金參拾錢乃至金五圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム

●刑法附則 主刑執行 刑事裁判費用 二百八十三

付キ金五錢乃至金拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アル時ハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第四十九條 証人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ止宿料ハ一日ニ付キ金貳拾錢乃至金五拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム但滿八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スル時ニ非サレハ之ヲ給與セズ

第五十條 証人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セズ(同上)

第五十一條 証人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 鑑定、通辯又ハ翻譯等ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スル時ハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得(三十年法律第二號ヲ以テ改正)

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未ダ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徴収ス

第五十四章 賠償處分
第五十四條 (三十一年法律第十一號ヲ以テ削除)
第五十五條 (同上)

第五十六條 (同上)

第五十七條 (同上)

第五十八條 (同上)

第五十九條 (同上)

第六十條 (同上)

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

◎刑事訴訟法

(明治二十三年十月六日 法律第九十六號)

第一編 總則

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第三編

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

◎刑事訴訟法

總則

犯罪ノ捜査 起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

第五十二條 官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ
告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

第三章 豫審

第一節 令狀

第七十六條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀、勾留狀ハ巡查、憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム

第七十七條 勾引狀、勾留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作り巡查、憲兵卒數人ニ分付スルコトアル可シ

勾引狀、勾留狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ携帶シ被告人ノ請求アルハ之ヲ示スヘシ(三十二年法律第七十三號ヲ以テ改正)
勾引、狀勾留狀ヲ執行シタル片ハ其正本ニ執行ノ場所及ヒ日時ヲ記載シ

若シ執行スルコト能ハサル片ハ其事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ(全上)
巡查、憲兵卒ハ令狀ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

第八十四條 在監中ノ被告人ニ對シ發シタル勾留狀ハ主獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシム(三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條改正)
勾留狀執行ニ關シテハ第七十七條ノ規定ヲ適用ス

第六節 證人訊問

第三百三十四條 証人ハ出頭ニ付テノ旅費、日當ヲ要ムルコトヲ得

第七節 鑑定

第四百一十一條 鑑定人ハ旅費、日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要ムルコトヲ得

第四編 公判

第二章 區裁判所公判

第二百十三條 檢事ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可キコトヲ裁判所ニ請求ス可シ

裁判所ハ裁判所書記ヲシテ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發セシム可シ

第二百十四條 呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ氏名、職業、住所、出頭ノ日時、場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且被告事件違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ナルトキハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載ス可シ
若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件ニ付キ取調ヲ受ケ

◎刑事訴訟法 裁判執行復権及ヒ特赦 裁判執行

二百八十八

サリシトキハ辯護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

第二百十五條 呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

第二百十六條 判事ハ豫審ヲ經サル被告事件急速ヲ要スルトキハ公判ニ取
掛ル前檢證處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ立
會ヲ要セス

第二百十七條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫
ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

又呼出ヲ受ケヌシテ出頭シタル者ト雖モ異議ノ申立ナキトキハ裁判所ニ
於テ証人トシテ其供述ヲ聽クコトヲ得

第八編 裁判執行、復権及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第三百二十條 刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所

ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ

罰金、科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徴金ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徴収
ス可シ

破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ処分ス可シ

第三百二十三條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ訴訟費用ニ付キ其判決
ノ執行ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

◎人事訴訟手續法

(明治三十一年六月十五日
法律第十一號)

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ
之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴
訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第十八條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第
三者ニ對シテモ其効力ヲ有ス

民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ
請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シ
テハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限り其効力ヲ有ス

第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及隱居
事件ニ關スル手續

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタ
ル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三章 禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル手續

◎人事訴訟手續法 婚姻事件及養子縁組事件ニ關スル手續 二百八十九

第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ
檢事ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定
代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送
達スヘシ

前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立
人ニ送達スヘシ

禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ
送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス
檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ
効力ヲ有ス

◎非訟事件手續法

(明治三十一年六月十五日
法律第十 四 號)

第一編 總則

第十八條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其効力ヲ生ス
裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得
民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前
裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルハ民事訴訟法第五條ノ規定ヲ準用ス

第二編 民事非訟事件

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法
ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第三章 裁判上ノ代位ニ關スル事件

第七十六條 申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ
前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者
ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ
裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ
債權者ノ負擔トス

●非訟事件手續法

總則

裁判上ノ代位ニ關スル事件

第八十二條 第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七章 遺言ノ確認及ヒ執行

第百十五條 裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セザリシ相續人其他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ前項ニ掲ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調書ヲ閱覽スルコトヲ得

第三編 商事非訟事件

第三章 商業登記

第一節 通則

第百五十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セザルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

◎附則

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ(三十二年法律第五十一號ヲ以テ改正) 裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ申述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡シヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ効力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

◎商事非訟事件印紙法

(明治二十三年八月十五日 法律第六十六號)

(三十一年勅令第四百十號ヲ以テ訴訟用印紙ヲ貼用) (スヘキ場合ニハ収入印紙ヲ用ユヘキコトト定ム)

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ 第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼

用ス可シ

第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立

二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

三 支拂猶豫ノ申立

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告ニ對スル答辨

二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル

非訟事件ニ係ルモノ

第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印

紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ

負擔シタル債務竝ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除ス

可キモノトス

財團ノ價額五圓マテ 四十錢

同 十圓マテ 六十錢

同 二十圓マテ 一圓二十錢

同 五十圓マテ 三圓

同 七十五圓マテ 四圓四十錢

同 百圓マテ 六圓

同 二百五十圓マテ 十三圓

同 五百圓マテ 二十圓

同 七百五十圓マテ 二十六圓

同 千圓マテ 三十圓

同 二千五百圓マテ 四十圓

同 五千圓マテ 五十圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ

第五條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印

紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金額高ノ割合ニ

從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ

第六條 協諧契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半

額ヲ貼用ス可シ

第七條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ

印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第

五節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス

●商事非訟事件印紙法

◎國稅徵收法

(明治三十年三月 法律第廿一號)

第一章 總則

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納税人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一个年前ニアル事ヲ公正證書ヲ以テ證明シタル時ハ該物件ノ價格ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セザル者トス

第四條 納税人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納税人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納税人他ノ公課ニ付キ滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲メニ其執行ヲ妨ケララル事ナシ

◎國稅徵收法施行規則

(明治三十年六月敕 令第百二十一號)

第十八條 民事訴訟法ニ依レル假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押アル時ハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若クハ強制管理人ニ通知スヘシ

第三十九條 國稅ノ滯納者他ノ債務ノ爲メ強制執行ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押

ヘラレタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滯納處分費及税金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ執行裁判所又ハ執達吏若クハ強制管理人ニ滯納處分費及税金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

◎行政裁判法

(明治廿三年六月 法律第百四十八號)

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

◎行政裁判所處務規程

(明治二十三年八月 勅令第百九十二號)

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀其他ノ書類ヲ使丁若クハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

◎陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法

(明治二十三年八月十五日 法律第六十七號)

第一條 軍法會議私訴裁判ノ強制執行ハ兵營艦船若クハ軍事用廳舎ニ於テ行フ場合ヲ除ク外軍法會議ノ囑託ニヨリ通常裁判所之ヲ行フ

第二條 軍法會議ハ軍法會議私訴裁判ノ強制執行ニ關シテハ職權ニ因リ若クハ原告人又ハ被告人ノ申立ニ因リ補充及取消ノ命令ヲ爲スコトヲ得

◎陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法

第三條 軍法會議私訴裁判ノ強制執行ハ判決言渡書ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス
前項言渡書ノ正本ハ原告人ノ請求ニヨリ軍法會議之ヲ付與ス

第四條 軍法會議ハ必要ト認ムル場合ニ於テ假執行假差押假處分ノ命令ヲ
爲ス假執行ヲ命シタルトキハ其旨ヲ言渡書ノ正本ニ附記ス

第五條 第一條ニヨリ通常裁判所ニ於テ強制執行ヲ爲ストキハ民事訴訟法
ノ規定ニ從フ

◎外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律

(明治三十二年三月法律第五十號)

第一條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ス
ルヲ以テ足ル

捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコト
ヲ得

第二條 民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本
ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所アル外國ノ管轄官廳ノ
證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス
但シ其ノ證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ
日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所又ハ居所地ノ市町村長

ノ證明書ヲ以テ前項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提
出スルコト能ハサルハ其ノ證明カ不十分ナル所ハ裁判所ハ日本ニ駐在
スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

◎公證人規則

(明治十九年八月
法律第二二號)

第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職
務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル
可キ公證書類ヲ作ルヲ得ス若シ之ヲ作リタル所ハ公正ノ効ヲ有セス

第三條 公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判
所ノ命令ヲ得テ執行スル力アルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルト
キハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルトキハ其
證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要
トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効

●公證人規則 總則 證書ノ原本

ヲ有セヌ(三十二年法律第四十九號商法施行法第百二十四條參看)

公証人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公証人氏名ヲ知リ面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ証セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セヌ

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字竝ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公証人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ス片ハ其ノ原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公証人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加、改正、消字ノ効ヲ有セヌ

第三十四條 證書ヲ作りタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公証人並ニ關係人各自署名捺印シ公証人ハ某治安裁判所管內某地住居ト肩書ス可シ

公証人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セヌ若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ其公正ノ効ヲ有セヌ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價証券ノ支辨ニ限り權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セヌ

有セヌ

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作りタル後ニ作り得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作りタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セザルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公証人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セヌ

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末尾竝ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ヌ之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セヌ

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公証人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可キコトヲ命スルコトアル可シ
其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公証人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セヌ

第四章 手数料及旅費日當

●公証人規則 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ罫紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料ノ計算書ヲ與フ可シ

◎印紙稅法 (明治三十二年三月九日 法律第五十四號)

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若クハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿端數ヲ生スルトキハ壹錢ニ切上クルモノトス

第三條 爲替手形、約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ

第四條 金高二千圓未滿 印紙稅二錢 金高二千圓以上 印紙稅十錢
左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シテ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

- 一 委任狀 印紙稅一錢 一 銀行預金証書 印紙稅二錢
- 一 船荷証券 印紙稅二錢 一 運送貨物引換證 印紙稅二錢
- 一 倉荷預證券 印紙稅二錢 一 倉荷質入證券 印紙稅二錢
- 一 株式 印紙稅二錢 一 債券 印紙稅二錢
- 一 株式申込證 印紙稅二錢
- 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙稅二錢
- 一 使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙稅二錢

●印紙稅法

●印紙税法

三四

- 一定款及組合契約書 印紙税二銭
- 一權利ノ變更ニ關スル證書 印紙税三銭
- 一追認、承認ニ關スル證書 印紙税二銭
- 一物品切手 印紙税二銭
- 一送狀 印紙税二銭
- 一金高記載ナル證書 印紙税二銭
- 一擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙税二銭
- 一通帳 印紙税二銭
- 一左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ、印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
- 一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
- 一國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
- 一慈善又ハ公共事業ノ爲メニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
- 一俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
- 一小切手
- 一金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形
- 一營業ニ關セサル受取書

第五條

- 一金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書
- 一主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
- 一證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
- 一株券債券ノ讓渡ヲ証明スヘキ裏面記載
- 一手形ノ引受、保證
- 一手形及證券ノ拒絕證書
- 一手形及證券ノ複本、謄本
- 第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

◎利息制限法

(明治十年九月 法律第六十六號布告)

- 利息制限法左ノ通相定候條此旨布告候事
- 第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
- 第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ處ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一箇年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各制限ニマテ引直サシムヘシ
- 第三條 (明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第五十二條ヲ以テ削

●利息制限法

三五

除) 四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等
ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルトキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金、罰金、
違約金、科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補
償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト
思量スルトキハ之ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

「參照」(明治三十二年三月法律第四十九條商法施行法第百十七條明治十年
第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス)

◎不動産登記法

(明治三十二年二月二十三日
法律第二十四號)

第百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テ
ハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

◎執達吏監督手續

(宮城控訴院管内)

第一章 總則

第一條 執達吏ノ監督ハ法令ニ規定アルモノノ外本手續ニ從フ

第二條 執達吏ノ作りタル書類數葉ニ涉ルトキハ每葉ニ契印スヘシ

第三條 執達吏ヨリ地方裁判所長又ハ控訴院長ニ書面ヲ差出ニハ監督官ヲ

經由スルコトヲ要ス

第四條 執達吏役場ニハ執達吏某役場ト記載シタル標札ヲ掲クヘシ

第五條 執達吏役場ニハ見易キ場所ニ手數料及ヒ旅費ノ標準額ヲ揭示スヘ
シ

第六條 執達吏ハ監督官ノ指定シタル場所ニ詰所ヲ設ケ大祭日、日曜日、其
他ノ休日ヲ除ク外毎日裁判所ニ出張スヘシ

執達吏ハ監督官ノ許可ヲ得テ出張ノ人員若クハ時間ヲ限定シ又ハ代理者
ヲ出張セシムルコトヲ得

第七條 執達吏ハ執達吏規則第十一條第一號乃至第四號ニ掲ケタルモノヲ
シテ臨時其職務ノ執行ヲ爲サシムルニハ其資格ヲ證スル書面ヲ添ヘ監督
判事(區裁判所)ノ一人ノ判事ヲ包含ス以下之ニ倣フ)ニ鑑札ノ交付ヲ請フ
ヘシ

執達吏規則第十一條第四號ニ掲ケタル者ニ付テハ執達吏登用規則第一條
第一號乃至第五號ノ諸件ヲ具備シ且同規則第二條ノ諸件ニ觸レサルコト

ノ証明書及ヒ履歷書ヲ添ヘ豫メ監督判事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第八條 監督判事ハ執達吏代理ヲ不當ト認メタルトキハ認可ヲ取消シ又
ハ執達吏ヲシテ其委任ヲ解除セシムヘシ

第九條 執達吏ハ其代理者ノ委任ヲ解キタルトキハ事由ヲ明記シ之ヲ監督

判事ニ申告シ且ツ同時ニ會長ニ通知スヘシ
第十條 執達吏代理者ハ洋服若クハ羽織袴及ヒ一定ノ帽（圓形ニシテ徑一
寸二分ノ眞鍮ニ執達吏代理ト刻シタル徽章ヲ正面ニ付ク）ヲ着用スヘシ

第二章 執達吏會

第十一條 各地方裁判所管内ノ執達吏ハ事務取扱ノ發達、統一及ヒ矯正ヲ
謀ル爲メ執達吏會ヲ設ケ其會則ヲ定ムヘシ

第十二條 執達吏會ニ會長及ヒ副會長各一人ヲ置クヘシ

會長及ヒ副會長ノ氏名ハ之ヲ控訴院長、地方裁判所長及ヒ其管内各監督
判事ニ届出ツヘシ

第十三條 會長ハ會員ノ全躰ヲ代表シ之ニ關スル一般ノ事務ヲ處辯スヘシ
副會長ハ會長差支アル場合ニ於テ會長ノ職務ヲ行フ

第十四條 會長ハ少ナクトモ毎年一回會員ノ總會ヲ開クヘシ
會長ハ豫メ總會開會ノ日時、場所及ヒ會議事項ヲ地方裁判所長ニ申報ス
ヘシ

監督官ハ何時ニテモ總會ニ出席シ又ハ諮問ヲ爲スコトヲ得
會長ハ決議ノ要旨ヲ地方裁判所長ニ申報スヘシ
第十五條 會長及副會長ノ選定手續并ニ其任期ハ會則ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 各執達吏ハ他ノ執達吏ニ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリ事務取扱ニ不
適當若クハ不充分ノ廉アリ地位ニ不相應ナル行狀アリ又ハ執達吏會則ニ
違背シタル廉アリト思料シタルトキハ他ノ執達吏ノ屬スル區裁判所監督
判事又ハ地方裁判所長ニ申告スヘシ

第十七條 新タニ任セラレタル執達吏及ヒ甲地方裁判所ヨリ乙地方裁判所
管内ニ轉補セラレタル執達吏ハ其所屬區裁判所所在地ヲ管轄スル地方裁
判所管内ノ執達吏會則ニ從フヘシ

第三章 執達吏ノ職務施行
第十八條 執達吏強制執行假差押及ヒ假處分ノ委任ヲ受ケタルトキハ可成
自身ニ之ヲ爲スヘシ

第十九條 執達吏ハ職務上保管ノ爲メ金錢、物品又ハ證書類ヲ受取リタル
場合ニ於テ請求アルトキハ受領證ヲ交付スヘシ

第二十條 執達吏ハ事件ノ委任ヲ拒絕シタルトキハ遲滯ナク其事由ヲ監督
判事ニ届出ツヘシ

第二十一條 執達吏ハ急速ヲ要スル事件ノ外命令又ハ委任ノ順序ニ從ヒ其
事務ヲ取扱フヘシ

第二十二條 執達吏ハ其作リタル書類及ヒ送達證書ノ欄外上部ニ立替金額
其種類及ヒ手數料ヲ記載シ之ニ認印スヘシ但裁判所又ハ檢事局ノ命令ニ

●執達吏監督手續 執達吏ノ職務施行

因ル送達ニ付テハ其送達證書ニ無手数料ナルヲ記載シ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ委任ニ因ル送達ニ付テハ一時無報酬ナルヲ附記スヘシ

第二十三條 執達吏ハ期日若シクハ期間ニ關係ヲ有スル書類ヲ送達シタルトキハ期日ノ到着若シクハ期間ノ滿了前ニ其送達證書ヲ送達委任者ニ交付スヘシ若シ其期日ノ到着若シクハ期間ノ滿了前送達ヲ施行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ詳記シテ遲滞ナク之ヲ送達委任者ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ執達吏ノ取扱フ告知及ヒ催告ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 執達吏ハ強制執行、假差押又ハ假處分ノ委任ヲ受ケタル日ノ翌日尙ホ執行ニ着手スルコト能ハサル事由アルトキハ其旨ヲ監督判事ニ報告シ且委任者ニ通知スヘシ

第二十五條 執達吏ハ有体動産ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テ債權者ノ利益ヲ害セサル限リハ債務者ノ撰擇シタル順序ニ從ヒ物件ノ差押ヲ爲スヘシ

若シ之ヲ撰擇セサルトキハ職權ヲ以テ金錢有價證券等簡單ナルモノヨリ差押ヘ商品若シクハ衣服什器ハ之ヲ後ニス可シ如何ナル場合ニ於テモ債權者又ハ其代理者ノ指示ニ從フヘカラス

第二十六條 執達吏ハ職務ノ施行ヲ爲スニ際シ如何ナル事情アルモ債權者又ハ其代理人ヲシテ物件ノ搜索ヲ爲サシムヘカラス

第二十七條 執達吏ハ債務者カ物件ヲ隱蔽シ若シクハ之カ提出ヲ爲ササル

トキノ外物件ノ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 差押ノ物件ハ一個毎ニ見積ノ價格ヲ附スヘク異種類ナル數個ノ物件ヲ合計シテ價格ヲ附スルコトヲ得ス

第二十九條 筐匣倉庫等ニ貯藏セル物件ヲ差押フルトキハ其物件ヲ各別ニ明記スヘシ單ニ筐匣倉庫等トシテ差押ヘ封印ヲ爲スヘカラス

第三十條 差押物件ヲ占有スルトキハ微少ノ物件ト雖モ各個ニ差押調書ニ明記スルニ非サレハ之ヲ債務者ヨリ引揚ルコトヲ得ス

第三十一條 執行ノ時間三時間以上ニ涉リタルトキハ延長ノ時間及ヒ其事由ヲ調書ニ明記スヘシ

第三十二條 物件差押ノ際債務者又ハ第三者ヨリ債務者ノ財産ニアラサル旨ノ申立アルトキハ其旨ヲ調書ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ債務者又ハ第三者カ自己ノ利益トシテ申立タル事項ニ之ヲ適用ス

第三十三條 差押物ニ付封印、標目又ハ告示等ヲ爲スニハ之ニ差押又ハ假差押ノ區別ヲ明記スヘシ

第三十四條 執達吏他ノ執達吏ノ假差押ニ係ル物ニ對シ差押ヲ爲シタルトキハ假差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル執達吏ハ之ヲ債權者ニ通知スヘシ

第三十五條 執達吏不動産若クハ船舶ノ引渡又ハ明渡執行ヲ爲スニ際シ他ノ執達吏ノ差押又ハ假差押ヲ爲シタル動産アルトキハ引渡又ハ明渡ノ執行ヲ爲ス旨ヲ速ニ其執達吏ニ通知スヘシ

第三十六條 民事訴訟法第五百七十三條ノ規定ニ因リ鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ鑑定書ヲ徵シ競賣調書ニ添附シテ契印スヘシ

第三十七條 執達吏ハ代理者ヲシテ職務ノ執行ヲ爲サシメタルトキハ其行爲ヲ調査シ役場ニ保存ス可キ證書又ハ調書ニ捺印スヘシ

第三十八條 執達吏執行行爲ニ付キ作ルヘキ調書ニハ法令ノ規定ニ從テ外債權者及ヒ債務者ノ氏名、住所並ニ債務名義ヲ記載スヘシ

第三十九條 執達吏ハ假差押物件ノ貯藏ニ付キ不相應ノ費用ヲ要スヘキトキ又ハ著シク價格ノ減少ヲ生スル恐アルトキハ之ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知スヘシ

第四十條 執達吏ハ執達吏職務細則第十一條ノ規定ニ依リ保管スヘキ金銀ヲ密封シタルトキハ其封表ニ事件ノ番號及ヒ金額ヲ記載スヘシ

第四十一條 執達吏ハ罰金、科料、過料、裁判費用、追徵金又ハ沒收物品ヲ徵收シタルトキハ即日又ハ次日ニ納入若クハ引渡ノ手續ヲ爲スヘシ

委任ニ依リ收入シタル金品ハ各法律ノ規定ニ從ヒ速ニ引渡供託又ハ保管ノ手續ヲ爲スヘシ

委任者ヨリ受取タル豫納金ハ委任事件落著後直チニ精算シ過剩アレハ遅クモ七日以内ニ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十二條 執達吏前條ニ依リ債權者又ハ債務者ニ金品ヲ引渡シ又ハ還付セントスルトキハ滯滞ナク其旨ヲ債權者又ハ債務者ニ通知スヘシ

第四十三條 執達吏職務細則第七十二條第二項ノ規定ニ依リ執達吏カ債務者ニ通知スヘキ事項ハ同一ノ手續ニ依リ債權者ニモ之ヲ通知スヘシ

第四十四條 執達吏ハ利害關係人ヨリ証書又ハ記録中ニ存スル書類ノ謄本ノ交付ヲ求メタルトキハ滯滞ナク之ヲ交付スヘシ

判判事ニ報告スヘシ

第四十五條 執達吏其役場ヲ移轉シタルトキハ速ニ其旨ヲ地方裁判所長及ヒ監督判事ニ届出テ且任委者又ハ命令ヲ爲シタル裁判所若クハ檢事局ニ報告スヘシ

第四章 帳簿及ヒ書類ノ整理

第四十六條 執達吏ハ司法年度毎ニ附録第一號ノ一ノ雛形ニ從ヒ職務簿ヲ調製スヘシ

但シ其記載例ハ別冊ニ之ヲ定ム
民事送達簿及ヒ刑事送達簿ハ特ニ之ヲ設テ附録第一號ノ二ノ雛形ニ從ヒ

三ヶ月毎ニ之ヲ調製スヘシ

第四十七條 執達吏ハ司法年度毎ニ附録第二號ノ雛形ニ從ヒ豫納金受授簿ヲ調製スヘシ

第四十八條 執達吏ハ司法年度毎ニ附録第三號ノ雛形ニ從ヒ金品保管簿ヲ調製スヘシ

第四十九條 職務簿、豫納金受授簿及ヒ金品保管簿ノ每葉ニハ其使用前監督判事ノ契印ヲ受クヘシ

右帳簿ノ記入ハ滯滞ナク之ヲ爲シ十日毎ニ關係書類ヲ添へ監督判事ニ差出シ其檢閲ヲ受クヘシ

第五十條 執達吏ハ編制執行、假差押及ヒ假處分ノ委任ヲ完結シタルトキハ附録第四號ノ雛形ニ從ヒ其成績表ヲ調製シ五日以内ニ之ヲ監督判事ニ届出ツヘシ

第五十一條 執達吏ハ附録第五號ノ雛形ニ從ヒ毎月取扱ヒタル事務ニ付テハ月表ヲ調製シ翌月五日マテ毎年取扱ヒタル事務ニ付テハ年表ヲ調製シ翌年一月十五日マテニ之ヲ監督判事及ヒ地方裁判所長ニ差出スヘシ

第五十二條 執達吏ハ通常職務簿ノ外拒絕証書簿ヲ備フヘシ
第五十三條 拒絕証書簿ニハ作成ノ順序ニ從ヒ拒絕證書ノ全文ヲ記載スヘシ

拒絕証書簿ニハ一件毎ニ通常職務簿ノ年度、番號ヲ記載スヘシ

第五十四條 假差押、假處分強制執行又ハ其他ノ競賣事件ニ關シテハ一件毎ニ記録ヲ作ルヘシ記録ニ屬スル書類ニハ作成又ハ接受ノ際事件ニ關スル職務簿ノ年度、番號ヲ記載シ其作成、接受ノ順序ニ從ヒ之ヲ記録ニ編綴スヘシ

第五十五條 左ニ掲ケタル事件ニ關スル書類ニハ其作成又ハ接受ノ際事件ニ關スル職務簿ノ年度、番號ヲ記載シ其作成、接受ノ順序ニ依リ次ノ區別ニ從ヒ之ヲ綴込帳ニ編綴スヘシ
一告知及ヒ催告
二罰金、科料、没料、裁判費用、沒收物品及ヒ追徴金ノ徴收

前項ニ掲ケサル事件ニ關スル書類ニ付テハ別ニ綴込帳ヲ作ルヘシ

第五十六條 委任者又ハ其他ノ者ニ交付スヘキ書類ハ一定ノ紙袋ニ之ヲ置シ記録又ハ綴込帳ニ添付スヘシ
前項ノ紙袋ノ表面ニハ事件ノ表示ヲ爲シ且職務簿ノ年度、番號ヲ記載スヘシ

第五十七條 左ニ掲ケタル書類ハ作成又ハ接受ノ順序ニ依リ次ノ區別ニ從ヒ之ヲ綴込帳ニ編綴スヘシ
一令達告示

二執達吏代理者ニ關スル書類

三統計表及ヒ統計報告書

前項ニ掲ケサル書類ニシテ保存ヲ必要ト認ムルモノニ付テハ別ニ綴込帳ヲ作ルコトヲ得但書類ノ種類ニ從ヒ之ヲ分設スルコトヲ妨ケス

第五十八條 記録又ハ帳簿ニハ附録第六號又ハ第七號ノ雛形ニ從ヒ厚紙ノ表紙ヲ附スヘシ

第五十九條 書類ニハ記録又ハ帳簿毎ニ丁數ヲ起シ順序ヲ遂ヒテ每葉ニ其丁數ヲ記載スヘシ

記録又ハ綴込帳ノ首ニハ附録第八號ノ雛形ニ從ヒ目錄ヲ附スヘシ

第六十條 記録及ヒ帳簿ハ其種類ニ從ヒ一定ノ場所ニ藏置シ其場所ニ適宜ノ表示ヲ爲スヘシ

第六十一條 執達吏ハ附録第九號ノ雛形ニ從ヒ職務ニ關スル現在ノ記録及ヒ帳簿ノ目錄ヲ調製スヘシ

第六十二條 監督官ハ何時ニテモ執達吏役場若クハ職務施行ノ場所ニ臨ミ其職務ノ執行ヲ監視スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事項ハ所屬裁判所書記ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十三條 監督官ハ一定ノ事項ヲ指定シテ報告ヲ爲サシメ又ハ記録、帳簿若クハ保管金品ヲ裁判所ニ提出セシムルコトヲ得

第六十四條 何人ニ限ラズ執達吏若クハ其代理者ニ於テ左ノ事項ノ一ニ觸ルルコトヲ知リタルトキハ其証據トナルヘキモノヲ添付シ監督判事ヘ書面ヲ以テ申告スルヲ得シセムヘシ

一職務執行ノ際正服ヲ着セス又ハ徽章ヲ佩用セヌ若クハ代理者カ其代理ノ証ヲ携帯ヒサリシトキ

二職務執行ノ際猥リニ威權ヲ弄スル等ノ行爲アリタルトキ

三自己ノ役場ニ委任者ヲ誘導スル如キ行爲アリタルトキ

四常事者及ヒ其親族又ハ競買人ト共ニ宿泊シタル等ノ行爲アリタルトキ

五制規ノ手數料等ヲ増減シ又ハ定規外ノ報酬ヲ受ケタルトキ

六債權額及強制執行ノ費用ニ超過スル財産ノ差押ヲ爲シタルトキ

七競買人ト通謀シ其競買人ニ競落セシメタルトキ

八出張先又ハ役場外ニ於テ委任ヲ受ケタルトキ

九右ノ外不正ノ行爲若クハ不相應ナル行狀アリタルトキ

第六十五條 監督判事ハ執達吏ノ懲戒又ハ轉補ヲ必要ト思料スルトキハ其旨地方裁判所長ニ具申スヘシ

第六十六條 地方裁判所長ハ執達吏ノ懲戒又ハ轉補ヲ必要ト認ムルトキハ

其旨司法大臣ニ具申スヘシ

第六十七條 監督判事ハ執達吏ノ職務修習者ニ不適當ノ行狀アリト認ムル

トキハ地方裁判所長ヲ經テ其旨控訴院長ニ具申スヘシ

第六十八條 執達吏他ノ區裁判所執達吏ニ轉補セラレタルトキハ前任地ノ

區裁判所監督判事ハ執達吏規則第二十條ノ規定ニ準シ處分ヲ爲スヘシ

第六十九條 現行ノ監督手續ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎仙臺地方裁判所管内執達吏會則

第一章 總則

第一條 本會ハ執達吏ノ職務取扱ノ發達、統一及ヒ矯正ヲ圖ルヲ以テ其目的トス

第二條 本會ニハ左ノ帳簿ヲ備フ

一 會員名簿

二 議事録

三 會計簿

第二章 會員

第三條 本會ハ仙臺地方裁判所管内ノ執達吏ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 會員ハ書面ヲ以テ其氏名、年齢、族稱、住所、役場ノ位置及ヒ任命並ニ補職ノ年月日ヲ遲滯ナク會長ニ報告スヘシ

第五條 會員ハ左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク書面ヲ以テ其旨ヲ會長ニ報告スヘシ

一 族稱又ハ氏名ニ變更アリタルトキ

二 住所又ハ役場ヲ移轉シタルトキ

三 七日以上旅行セントスルトキ及ヒ歸宅シタルトキ

四 會員ノ資格ヲ喪失シタルトキ

第六條 會員ハ左ノ場合ニ於テ遲滯ナク其旨ヲ會長ニ報告スヘシ

一 控訴院長又ハ地方裁判所長ノ訓令、諭告若クハ注意ヲ受ケタル時

二 職務ニ關シ民事又ハ刑事ノ裁判ヲ受ケタルトキ

第七條 懲戒處分ヲ受ケタルトキ

第八條 本會ニハ左ノ役員ヲ置ク

一 會長 一人

二 副會長 一人

本會ニハ書記壹名ヲ置ク

◎仙臺地方裁判所執達吏會則 役員

第九條 役員ハ毎年四月通常會ニ於テ無記名投票ヲ以テ會員之ヲ互撰ス

第十條 役員ニ欠員ヲ生シタルトキハ一ヶ月内ニ補闕役員ヲ選舉ス此場合

ノ選舉ハ便宜ノ方法ニ依ルコトヲ得

第十一條 會長及ヒ副會長ノ任期ハ之ヲ一年トス

但再選ヲ妨ケス

補闕役員ノ任期ハ前役員ノ任期ニ依ル

第十二條 會長ハ左ノ職務ヲ行フ

一 控訴院長又ハ地方裁判所長ノ訓令ヲ會員ニ通達スルコト

二 開會ノ日時、場所及ヒ會議ノ事項ヲ豫メ地方裁判所長ニ申報スル

コト

三 會議ノ結果其他各會員ヨリ報告シタル事項ヲ會員ニ報告スルコト

四 開會ノ日時、場所ヲ會員ニ通知シ議事ヲ準備シ及ヒ會ノ決議ヲ執

行スルコト

五 議長トナルコト

六 書記ヲ任命スルコト

七 本會ノ庶務及ヒ會計ヲ處理スルコト

第十三條 副會長ハ會長差支アル場合ニ於テ其職務ヲ行フ

第四章 會議

第十四條 會議ニ付スヘキ事項ハ左ノ如シ

一 監督官ノ諮問事項

二 控訴院長又ハ地方裁判所長ニ對スル職務上ノ請訓又ハ建議

三 職務取扱ニ關スル事項

四 會則變更

五 會費ニ關スル事項

六 風紀ニ關スル事項

第十五條 議會ハ會員三分ノ二以上ニ出席アルニ非サレハ之ヲ開會スルコ

トヲ得ス

第十六條 會議ハ地方裁判所々所在地ニ於テ之ヲ開ク

第十七條 會議ヲ分チテ左ノ二種トス

一 通常會

二 臨時會

第十八條 通常會ハ毎年四月之ヲ開ク

第十九條 臨時會ハ必要アル毎ニ之ヲ開ク

會員三分ノ二以上ヨリ會議ノ事項ヲ明示シテ開會ヲ請求シタルハ亦同シ

第二十條 開會ハ二週間前各會員ニ對シ其通知書ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知書ニハ會議ニ付スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

臨時會ニ付テハ急速ヲ要スル場合ニ限リ前二項ノ規定ヲ適用セス

●執達吏會則 職務及ヒ風紀

三百二十二

第二十一條 會員ハ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第二十二條 會議ニ出席スルコト能ハルサ會員ハ豫メ其事由ヲ會長ニ届出ツルコトヲ要ス

第二十三條 議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

會則ノ變更ハ總會員三分ノ二以上ノ同意アルニ非ラサレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

第二十四條 會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付テハ之ニ干與スルコトヲ得ス

第五章 職務及ヒ風紀

第二十五條 執達吏ハ職務上ト否トヲ問ハス其信用及ヒ品位ヲ損スヘキ行為ヲ爲スヘカラス

第二十六條 執達吏ハ不正ノ競争若クハ委任者ノ誘引ヲ爲シ又ハ他ノ執達吏ノ利益ヲ害スヘキ行為ヲ爲スヘカラス

第二十七條 執達吏ハ執達吏手數料規則ニ定メタル手數料若クハ旅費其他ノ立替金ヲ受クルノ權利ヲ拋棄シ又ハ其金額ヲ増減スルコトヲ得ス

第二十八條 執達吏ハ役場若クハ裁判所外ニ於テ事件ノ委任ヲ受クヘカラ

第二十九條 執達吏ハ役場、裁判所詰所又ハ職務施行ノ場所以外ニ於テ職

務ニ關スル金品受授ヲ爲スヘカラス

第三十條 執達吏ハ職務ヲ施行スルニ際シ猥リニ法律上ノ意見ヲ說示シ若クハ仲裁ヲ爲シ又ハ無用ノ質問ヲ爲スヘカラス

第三十一條 執達吏ハ職務ノ施行ヲ爲ストキハ債務者ノ身分若クハ職業ニ從ヒ其名譽ヲ損シ又ハ信用ヲ害セサルコトニ注意スヘシ

◎執達吏用書式

左ノ書式ハ半枚十二行二十字詰又「印ハ朱書以下之ニ做フ

書式甲第一號(民訴五四〇、五六六)

有体動産差押調書

府縣郡市町村番「職」

債權者 「某」

府縣郡市町村番「職」

債務者 「某」

請求金額

金

手數料及立替金

合計金

●執達吏用書式

訴訟費用

三百二十三

合計金

右金額ハ明治年月日裁判所控訴院ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス
 明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク(右命令ノ正本ニ基ク)債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)出會ノ上任意辨濟ヲ爲ヌヘキ旨ヲ催告シタリ
 債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)「支拂ヲ爲ヌノ資力ナキ旨ヲ」陳述シタリ
 依テ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ住居、店舗、倉庫、物置ヲ搜索シ別紙目錄ノ通り其財産ヲ差押ヘタリ
 右差押物ハ悉皆之ヲ占有シ「某所」ニ貯藏シタリ(債權者ノ承諾ニ依リ運搬人ニ差支タルニ依リ)封印ヲ爲シ標目ヲ附シ、公示書ヲ貼附シ、債務者ノ保管ニ任セタリ
 差押物ノ占有ハ執達吏ニ移リタルヲ以テ債務者ハ之ヲ處分スヘカラス若シ之ヲ處分シ又ハ封印、標目、公示書ヲ破毀スルトキハ刑罰ニ處セララルヘキ旨ヲ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)諭告シタリ
 差押物ハ明治年月日午前(後)時「某所」ニ於テ之ヲ競賣ニ付スヘシ
 明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同 時之ヲ完結シタリ
 口頭ヲ以テ(調書ノ謄本ヲ送達シテ)差押ヲ爲シタル旨ヲ債務者ニ通知シ

タリ

此調書ハ「某」(讀聞カセ)閱覽セシメ「某」ハ承諾ノ上記名調印シタリ

債務者 「某」 「印」

關係人(親屬證人ノ類) 「某」 「印」

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

明治年月日

執達吏

「某」 「印」

明治年月日午前(後)時競賣施行ニ先テ競賣スヘキ物ト差押調書ニ添附シタル差押財産目錄トヲ比照シタルニ「何」ハ見當ラヌ(毀損シタリ)

區裁判所

明治年月日

執達吏

「某」 「印」

書式甲第一號添附

差押財産目		番號	物件ノ表示	員數、尺度	見積代價	封印、標目	備考
「壹」	「雞卵」			重		又他ノ方法	
	「何箱」			量			
	「金何圓」						
	「何」						
	「腐敗物」						

録第「一」號		
「貳」	「春蠶種紙」	「何枚」
「參」	「金時計」	「金何圓」
	「壹個」	「金何圓」
		「封印」
		「期節物」

書式乙第一號民訴(五四〇)(五六六、五八六)

有体動産差押調書

府縣郡市町村番「職」

債權者「某」

府縣郡市町村番「職」

債務者「某」

請求金額

一金

合計金

訴訟費用

右金額ハ明治年月日ノ(裁判所控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ

職年號

手數料及立替

合計金

裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス
 明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク(右命令ノ正本ニ基ク)
 債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)出會ノ上任
 意辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シカリ

債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)「支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ」陳述シタリ
 執達吏「某」ハ他ノ債權者ノ爲メ既ニ債務者ノ財産ヲ差押ヘタルヲ以テ其
 差押調書ノ閱覽ヲ求メ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲
 メ別紙目錄ノ通り未タ其差押ニ係ラサル財産ヲ差押ヘタリ
 右差押物ハ悉皆之ヲ占有シ執達吏「某」ニ交付シタリ(債權者ノ承諾ニ依
 リ)(運搬人ニ差支ヘタルニ依リ)封印ヲ爲シ、標目ヲ付シ、公示書ヲ貼
 附シ、債務者ノ保管ニ任セタリ

差押物ノ占有ハ執達吏「某」ニ移リタルヲ以テ債務者ハ之ヲ處分スヘカラ
 ス若シ之ヲ所分シ又ハ封印、標目、公示書ヲ破毀スルトキハ刑罰ニ處セラ
 ルヘキ旨ヲ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)諭告シタリ
 明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同 時ニ之ヲ完結シタリ
 口頭ヲ以テ(調書ノ謄本ヲ送達シテ)差押ヲ爲シタル旨ヲ債務者ニ通知シ
 タリ
 此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ)(閱覽セシメ)シ所「某」ハ承諾ノ上記名調印シタ

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

明治年月日

債務者 「某」 「印」
關係人（親屬證人ノ類） 「某」 「印」
區裁判所
執達吏 「某」 「印」

書式内第一號（民訴五四〇、五八六）

照 查 調 書

府縣郡市町村番「職」

債權者 「某」

府縣郡市町村番「職」

債務者 「某」

請 求 金 額

取年號
手數料
及立替
金

一金
一金

合計金

右金額ハ明治年月日（裁判所控訴院）ノ判決（執行命令）及ヒ明治年月日ノ
裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟ス可キモノトス
明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク（右命令ノ正本ニ基ク）
債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者ニ（債務者ノ「某」ニ）出會ノ上任
意辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シケリ

債務者（債務者ノ「某」ハ）支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ「陳述」シタリ
依テ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ財産ヲ
差押ヘントシタルニ其財産ハ既ニ差押ニ係ルヲ以テ其差押ヲ爲シタル執
達吏「某」ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メ債務者ノ財産ト對照シタル所一モ差押
フヘキ物ナシ

明治年月日午前（後）時差押ノ手續ニ着手シ同 時之ヲ止メタリ
此調書ハ「某」ニ（讀聞カセ閱覽セシメ）シ所「某」ハ承諾ノ上記名調印シタ

債務者 「某」 「印」
關係人（親屬證人ノ類） 「某」 「印」
區裁判所
執達吏 「某」 「印」

書式丁第一號(民訴五四〇、五六四、五七〇)

有体動産差押調書

府縣郡市町村番「職」

債權者 「某」

府縣郡市町村番「職」

債務者 「某」

請求金額

一金
一金
一金

訴訟費用

合計金

右金額ハ明治年月日(裁判所控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス
明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク(右命令ノ正本ニ基ク)債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)出會ノ上任意辨濟ヲ爲ス可キ旨ヲ催告シタリ
債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ「陳述」シタリ

依テ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ住居(店舗、倉庫、物置)ヲ搜索シタル所其現ニ所有スル所ノ財産ハ別紙目録ノ通り法律上差押アルコトヲ得サル物又ハ差押アルコトヲ得ルモ換價ノ上強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキモノナルヲ以テ差押ヲ止メタリ

明治年月日午前(後)時差押ノ手續ニ着手シ同 時之ヲ止メタリ
此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ閱覽セシメ)シ處「某」ハ承諾ノ上記名調印シタリ

債務者 「某」 「印」

關係人(親屬證人ノ類)「某」 「印」

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

明治年月日

執達吏 「某」 「印」

書式第二號(民訴五四〇、五六八)

稟實差押調書

府縣郡市町村番「職」

債權者 「某」

三百三十一

職年號

手數料及立替

合計金

書式丁第一號(民訴五四〇、五六四、五七〇)

有体動産差押調書

府縣郡市町村番「職」

債權者 「某」

府縣郡市町村番「職」

債務者 「某」

請求金額

一金
一金
一金

訴訟費用

合計金

右金額ハ明治年月日(裁判所控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス
明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク(右命令ノ正本ニ基ク)債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)出會ノ上任意辨濟ヲ爲ス可キ旨ヲ催告シタリ
債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ「陳述」シタリ

依テ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ住居(店舗、倉庫、物置)ヲ搜索シタル所其現ニ所有スル所ノ財産ハ別紙目録ノ通り法律上差押アルコトヲ得サル物又ハ差押アルコトヲ得ルモ換價ノ上強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキモノナルヲ以テ差押ヲ止メタリ

明治年月日午前(後)時差押ノ手續ニ着手シ同 時之ヲ止メタリ
此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ閱覽セシメ)シ處「某」ハ承諾ノ上記名調印シタリ

債務者 「某」 「印」

關係人(親屬證人ノ類)「某」 「印」

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

明治年月日

執達吏 「某」 「印」

書式第二號(民訴五四〇、五六八)

稟實差押調書

府縣郡市町村番「職」

債權者 「某」

三百三十一

職年號

手數料

及立替

府縣郡市町村番「職」
債務者 「某」

請求金額

一金
一金
合計金

訴訟費用

合計金

右金額ハ明治年月日(裁判所控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟メヘキモノトス
明治年月日送達アリタル右判決ノ正本ニ基ク(右命令ノ正本ニ基ク)債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者(債務者ノ「某」ニ)出會ノ上任意辨濟ヲ爲ス可キ旨ヲ催告シタリ
債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)「支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ」陳述シタリ
依テ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者所有ノ田(畑)ニ於テ左ノ菓實ヲ差押ヘタリ

府縣郡市町村字番
一田何反何畝何歩
府縣郡市町村字番

「米」

一畑何反何畝何歩

「麥」

「何」ノ收穫豫定時期ハ 月 日

菓實賣得見積代金

田畑ニ公示札ヲ建テ其菓實ハ差押物ナルコトヲ示シ「某」ノ保管ニ任セタ

リ
差押菓實ノ占有ハ執達吏ニ移リタルヲ以テ債務者ハ之ヲ處分スヘカラス
若シ之ヲ處分シ又ハ公示札ヲ破毀スルトキハ刑罰ニ處セラレヘキ旨ヲ債
務者ニ(債務者ノ「某」ニ)諭告シタリ

明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同 時之ヲ完結シタリ

口頭ヲ以テ(調書ノ謄本ヲ送達シテ)差押ヲ爲シタル旨ヲ債務者ニ通知シ
タリ

此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ閱覽セシメ)シ處「某」ハ承諾ノ上記名調印シタリ

債務者

「某」 「印」

關係人(親屬証人ノ類)「某」 「印」

此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

明治年月日

執達吏

「某」 「印」

書式第三號(民訴五四〇、五六八)

職年號

手數料及立替

合計金

請求金額

府縣郡市町村番「職」
債權者「某」
府縣郡市町村番「職」
債務者「某」

一金

一金

一金

合計金

訴訟費用

右金額ハ明治年月日(裁判所控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟ス可キモノトス
明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本(右命令ノ正本)ニ基ク債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者(債務者ノ「某」)ニ出會ノ上任意辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シタリ
債務者(債務者ノ「某」)ハ「支拂ヲ爲ス資力ナキ旨ヲ」陳述シタリ

依テ前記金額並ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ左ノ場所ニ於テ債務者所有ノ蠶ヲ差押ヘタリ

府縣郡市町村番

差押所

同

何

何

差押ヘタル(春夏)蠶ノ概量

收積豫定期日 月 日

此見積賣得金

公示書ヲ「某所」ニ貼付シ蠶ハ差押物ナルコトヲ告示シ「某」ノ保管ニ任セタリ

差押ヘタル蠶ノ占有ハ執達吏ニ移リタルヲ以テ債務者ハ之ヲ處分スヘカラス若シ之ヲ處分シ又ハ公示書ヲ破毀スルトキハ刑罰ニ處セラルヘキ旨ヲ債務者(債務者ノ「某」)ニ諭告シタリ

明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同 時之ヲ完結シタリ

口頭ヲ以テ(調書ノ謄本ヲ送達シテ)差押ヲ爲シタル旨ヲ債務者ニ通知シタリ

此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ閱覽セシメ)シ處「某」ハ承諾ノ上記名調印シタリ

●執達吏用書式

三百三十六

債務者 「某」 「印」
 關係人（親屬證人ノ類） 「某」 「印」
 此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ
 區裁判所
 執達吏
 明治年月日 「某」 「印」

書式第四號（民訴五七六）

動産競賣期日公告

一「何」 「何個」
 右ハ來ル月日午前（後）時「某處」ニ於テ競賣ニ付ス可シ
 區裁判所
 執達吏
 明治年月日 「某」 「印」

書式第五號（民訴五四〇、五七二五七七）

有体動産競賣調書

府縣郡市町村番「職」

職年號

請求金額

債權者 「某」
 府縣郡市町村番「職」
 債務者 「某」

一金 一金 一金 一金

合計金

訴訟費用
差押費用

右金額ノ辨濟ニ充ツル爲メ明治年月日「某所、某新聞」ニ掲載セシ公告ノ
 通り別紙目錄ニ記入シタル差押物ヲ競賣ニ付シタリ
 臨場競買人ニハ左ノ條件ヲ告知シタリ
 一 競落ハ最高競買價額ヲ三回呼上ケタル後ナルコト
 一 競落物ハ代金ト引換ノ上引渡ス可キコト
 一 最高價競買人ハ競賣期日ノ終ル前ニ代價ヲ支拂ヒ競買物ノ引渡ヲ求
 ム可シ（競買人ハ月日限リ代價ヲ支拂ヒ競買物ノ引渡ヲ求ム可シ）若
 シ此條件ヲ履行セサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ニ付ス可キコト
 一 最高價競買人ハ再度ノ競買ニ加ハルコトヲ得ス且其競落代價最初ノ

●執達吏用書式

三百三十七

●執達吏用書式

三百三十八

競落代價ヨリ低キトキハ其不足ヲ負擔ス可ク之ヨリ高キトキモ其剩餘ヲ請求スルコトヲ得サルコト
 右ノ告知ヲ爲シタル後競買ヲ催告シタリ
 各競賣物ノ價額ハ別紙目錄ニ記入シタル最高價ノ申出アリタル後三回之ヲ呼ケタルモ更ニ高價申出人ナキニ依リ「某」ヲ以テ競落人ト定メタリ
 競落人ハ競買物ノ代價ヲ支拂ヒタリ「場合ニヨリ此記入ヲ要セス」
 競賣賣得金ノ計算ハ左ノ如シ

一金

賣得額

競賣費用

差引金

一金

債權者「某」ニ渡ス
 債務者ニ返還

右調書ハ最高價申出人承諾ノ上記名調印セリ

年月日

「某」

「印」

（最高價申出人ハ期日ノ終ル前ニ退場シタルニ依リ記名調印セシムルコトヲ得ス）
 此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

明治年月日

執達吏

「某」 「印」

書式第五號添附（民訴五四〇、五七七）

競賣物目錄		見積	最高競買人	備考
番號	差押調書番號	代金	最高競買人	備考
「二」	「二」	「圓錢」	「圓錢」	「某」
				「代價支拂」

書式第六號（民訴五九三）

執行事情届書

職年號
 手數料
 及立替
 金

右ハ府縣郡市町村借債務者（某）所有ノ差押物、賣得金（差押金錢）ニ有之候處其債權者ヲ満足セシムルニ足ラス且債權者間ノ配當協議調ハサルニ依リ大藏省預金局（何地何金庫）ニ供託候條別紙證明書類相添へ此段及御届候也

區裁判所

執達吏

「某」 「印」

明治年月日

三百三十九

●執達吏用書式

合計金

書式第七號(民訴五四〇、七三〇)

動産引渡執行調書

府縣郡市町村番「職」

債權者

「某」

府縣郡市町村番「職」

債務者

「某」

「何個」

一「何」

年號
手數料
及立替
金
合計金

右ハ明治年月日ノ(裁判所控訴院)ノ執行力アル判決ニ依リ債務者ヨリ債權者ニ引渡スヘキモノトス
明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者(債務者ノ「某」)ニ出會ノ上任意前記ノ「何」ヲ引渡シ且此執行費用ヲ辨濟スヘキ旨ヲ催告シタリ
債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)「何」ノ引渡ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ「陳述」シタリ
依テ債務者所有ノ倉庫(「某所」)ニ於テ前記ノ「何何個」ヲ取上ケ債權者

(其代理人「某」ニ)引渡シタリ(運搬人ニ差支タルヲ以テ「某所」ニ貯藏シ封印ヲ付シタリ)(債權者ノ爲メ「某所」ニ輸送タリ)シ
明治年月日午前(後)時右ノ手續ニ着手シ同 時之ヲ完結シタリ
此調書ハ「某」ニ(讀聞カセ閱覽セシメ)シ處「某ハ」承諾ノ上記名調印シタリ
此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

執達吏

「某」 「印」

明治年月日

區裁判所
部

號年

書式第八號(民訴五四〇、六六七)

不動産競賣調書

府縣郡市町村番「職」

差押債權者

「某」

府縣郡市町村番「職」

債務者

「某」

請求金額

一金

一金
一金

訴訟費用

合計金

右金額ノ辨濟ニ充ツル爲メ明治年月日當區裁判所及ヒ「何」(市町村)ノ掲
示板并ニ明治年月日ノ「某」新聞紙ニ掲載セシ公告ノ通り左ノ

「何縣何郡何村字何番地」

「田何町何反何畝何歩」

ノ競賣期日ヲ開キ以下ノ手續ヲ履行シタリ

一執行記録ハ各人ノ閱覽ニ供シタリ

一(特別賣却條件)

ヲ告知シタリ

一月日午前(後)時競買價額ノ申出ヲ催告シタリ

一別紙競買申出人氏名價額目錄ノ通り競買ノ申出アリタリ(相當ノ競買

ヲ申出ツルモノナキヲ以テ其競買ヲ許サス)

一競買人「某」ハ「某」ノ申立ニ因リ現金(公債證書株券)ニテ金

保証ヲ立テタリ(競買人「某」ハ「某」ノ申立アルモ保証ヲ立テサルニ因

リ其競買ヲ許サス)

一「某」ヲ以テ最高價競買人ト定メ其氏名並ニ最高價額ヲ呼上ケタル後
月 日午前(後) 時競賣ノ終局ヲ告知シタリ
右調書ハ左ノ利害關係人承諾ノ上記名調印セリ

最高價競買人

差押債權者

債務者

債權者

「某」 「印」

「某」 「印」

「某」 「印」

「某」 「印」

「某」ハ調書作成前退場シタルニリ記名調印セシムルコトヲ得ス)
此調書ハ「某所」ニ於テ之ヲ作ルモノナリ

區裁判所

執達吏

「某」 「印」

明治年月日

書式第八號添附

競買申出人氏名

第 號	競買申出人氏名	住 所	競 買 價 額
「二」	「某」	「府縣郡市町村番」	「何 圓 錢」



